

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	1495000521	事業の開始年月日	平成26年4月1日
		指定年月日	平成28年12月1日
法人名	株式会社ケア		
事業所名	グループホーム殿町		
所在地	(210-0821) 神奈川県川崎市川崎区殿町2丁目14-11		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年1月19日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

1、日中は人員を増やし入居者様の思いを少しでも現実に近づけるように努めております。

2、この地域で生活するという意識を持っていただけるよう町内会の催しに積極的に参加しています。(今年はコロナウイルス対策のため自粛) 大家族で生活しているという考え方のもとで個人の能力を生活に活かし個人に合った生活が出来るよう努めています。季節感のある工作の作成や手作りおやつ作り、食レク等を行事に取り入れ、職員共々楽しめる空間づくりを心掛けています。

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年3月15日	評価機関 評価決定日	令和5年5月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

事業所は京浜急行大師線の終点「小島新田」駅下車、徒歩7分の南道路に面した2階建ての木造建物です。隣接して託児スペース付きの法人のグループホームがあります。工場、住宅が混在し、近くには老人憩いの家、子供文化センター、小学校、幼稚園、水神宮や多摩川土手があります。散策が楽しめる静かな環境です。

<優れている点>

法人の理念「笑顔」と「行動指針」を受けて事業所の各階独自で作成した理念「優しさ、親切、丁寧」、「家族、職員とのコミュニケーション」を支援の基本としています。更に月間目標に落として各フロアで実践しています。法人の姿勢として日勤3人体制を基本として日常の手厚い見守り支援をしています。隣接した事業所同士で連携をしながら助け合い、急な勤務変更やコロナウイルス感染症の対応の他、行事や研修会も合同で行われています。ユマニチュード(知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいた基本)の技法を基本として支援に努めています。食事介助など利用者同士で手伝い支え合う姿も生まれています。

<工夫点>

1人介助のリフトキャリーチェアを各階に導入し利用者と職員双方の安心・安全な入浴となっています。職員が手作りの食事を提供しています。日曜日の昼食などは誕生日のケーキ作りや、お汁粉、チャーハン、即席ラーメンなど日頃と違うメニューを提供することでメリハリをつけて食を楽しめるような工夫をしています。日常生活におけるバイタルチェック・食事・水分や排泄などを一目でわかる「生活記録」シートに記録して職員看護職員の確認と医療機関への連携資料として活用しています。川崎市の「健幸福寿プロジェクト」に参加して市長名の感謝状を利用者の居室に掲示しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム殿町
ユニット名	殿町一階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	笑顔があるからのテーマで安心安全な生活が出来るように心掛けています。伝える広げる相手の身になるを目標に掲げています。	法人理念「笑顔」をもとに、事業所の独自取り組みについてそれぞれのユニットごとに職員で話し合い作成しています。更に月間目標を設定し支援に活かしています。理念・目標行動指針や事業所の理念は「殿町各階の理念」として玄関や各階の事務所内に掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会、商店に出向き地域行事やホーム行事にも参加していただき、地域の方々と楽しんでいます。(今年はコロナウイルス対策で自粛)	地域にグループホームの存在を知ってもらうために、大きな看板を玄関前に掲げアピールしています。コロナ禍以前は地域との連携も多くあり夏祭りの手伝いや事業所の行事に地域の参加もありましたが今は自粛中です。「早く元に戻りたい」が合言葉でその時を待っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホーム行事への参加や認知症の方たちとの触れ合い話し合いで質疑応答しながら理解、支援を頂き、私たちもそれを活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	月に一度の開催で現況報告、研修の開催、地域連携し、意見交換しています。サービスの向上に繋げています。	隔月で運営推進会議を書面で行っています。法人の代表・町内会婦人部・看護師・クリニック関係者・社会保険労務士などの関係者とコロナ禍での対応状況や利用者の健康状態の報告・経営環境の変化など多岐にわたって話し合いをしています。	運営推進会議の構成委員として家族や利用者・地域包括支援センター職員等の参加への呼びかけを強めることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年はコロナウイルス対策により控えています。包括との意見交換等は必要があれば電話で連絡をしています。	川崎区役所高齢障害課とは保険認定手続きやコロナ対策の備品（抗体キット）などで相談・支援の関係を築いています。川崎市が進めている「かわさき健幸福寿プロジェクト」に参画しています。利用者に対する成年後見人支援の相談も積極的に進めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	拘束廃止委員会により研修やマニュアル作成をすることで拘束の無い介護の話し合いをしています。	隔月で身体拘束等廃止委員会を開催しています。チェックシートや、無記名で気が付いたことを書きとめる「メモカード」を活用しています。フロア会議で話し合い、関係者への理解・啓蒙と再発防止に努める機会としています。ベットからの転落防止が必要な利用者へは家族了解のもとフロアセンサーを付けています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内研修、施設内の委員会での勉強会、マニュアル作成配布で情報の共有、虐待について職員全員が理解し、虐待防止を徹底しています。	隔月で虐待防止委員会を開催し、職員にはチェックシートを活用して確認の機会としています。夜間対応の職員には「夜勤者ミーティング」を隣接の事業所と行き、助け合い・相談の機会として啓蒙と防止に努めています。入浴時には身体確認も行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	講習や年度により色々な制度の変更も有り講習、研修セミナーに参加し、他の部署に繋げるように活用し、支援しています。(今年はコロナウイルスにより自粛)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約解約に関しては手順に沿って行っています。改定がある場合はご案内文の送付後、個々に説明し、より良いサービスの提供が行われるよう心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時、近況報告をする際、ご家族にご要望を伺い気兼ねなく意見を言ってもらえる雰囲気を作るよう心掛けています。	毎月「家族だより」を出し、写真入りで細かく日常の様子を伝えています。訪問理美容の再開や、必要な費用発生の機会を利用しながらこまめに電話での連絡を取っています。家族からはガラス越しの面会ではなく早く通常の面会ができるようにとの要望が出ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催される運営会議において意見交換、企画提案し、サービスの向上に努めています。職員から見た状況、状態を示唆し提示しています。	意見は各階のリーダーのもと月一回開催のフロアミーティングで申し送り事項・事故・個別カンファレンス・ミニ勉強会・行事予定と一緒に話し合いをしています。「スマイルケア」という形で互いに気が付いたことを「メモカード」に書きとめて学び合いの機会としています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に一度実績や努力に対しての給料の見直しを行っています。人員不足の際は求人掲載広告を出し、近隣センター支援を受けるなどし、対応しています。	隣の事業所に託児スペースを設け、パート職員の就業環境を整えています。コロナ禍における収入不足を補うための一時金など、細かな配慮をして職員の定着と働きがいの向上に努めています。隣接の事業所との助け合いで休みが取りやすい環境をつくっています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修が行われた際は必ず参加できるようにしています。他研修の案内を掲示し、出席後は講師として施設内の勉強会を実施。より良い技術の向上、事故覚知に努めています。	年間計画にもとづく研修計画を立てています。欠席時はテキストを配付して確認しています。希望する資格取得や社外研修にも有給対応しています。新人に対しては必要な期間のOJT研修を実施してケア向上へのサポートをしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会、協議会などに加入し、研修会への参加、近隣グループホームとの交流を計っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思い、要望を傾聴しご本人を理解できるようにプランの中にも反映できるように努め、信頼関係を築き、安心できるような環境づくりを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族がどのような生活を望んでいるか、どのようにしていきたいか、要望を伺い信頼関係を築いています。特にあまりお話をされないご家族にはこちらからのきっかけづくりを多くしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族がどのような生活環境を作っていきたいのか、ご本人らしい生活をするにはどのようにしたらいいのかを十分に話し合い、納得するサービスが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	今までの生活環境を念頭に入れ、自立支援が出来るよう生活の中の役割を持って頂き社会の一員として共に楽しみ、悲しみを共有できるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話やFAXや面会時などご利用者様の様子を説明。急を要する問題の場合は一緒に考えていただいています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様の馴染みの方にはがきを出すお手伝いをしたり、愛用していたものを居室に置き、馴染んでいただけるよう環境づくりを行っています。	個人で電話をする人もいますが、多くは届いた手紙を職員が代読しています。近隣の川崎区に住んでいた利用者が多く、馴染みの川崎大師、水神宮、多摩川土手の散策、花火大会を楽しみにしています。知り合いから届く季節のものや、花栽培や野菜の水やりも楽しんでしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格を知ったうえで、レクリエーション、ゲーム、歌、体操、散歩など同席可能かを配慮し、楽しい時間の共有を測れるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご家族にご本人の様子伺いをしたり、ご相談等の対応や、情報提供に努めています。記録等の開示もしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、ご本人からの情報提供でこれまでの生活環境や要望、希望、意向を聞き、十分に把握した上で対応しています。	職員と1対1で関わる入浴、散歩を利用し、ゆっくりと話を聞くようにしています。「野球をやっていた」という発言から職員はプロ野球の話題を意識して投げかけ、信頼関係を築いています。困難な場合は表情や態度から推し量るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅からの利用者様は情報提供してもらい、少しでも日常生活に近い支援を取り入れています。入院後のご利用者様は情報が著しく違うことが多い為ご家族とのカフェリスを持ち、職員同席でその人らしく過ごせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい生活歴、ルーツを把握し、1人1人を尊重し、心身状態を見ながら持っている力を出せるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	6か月に一度介護計画の見直し、1か月に一度モニタリングを行っています。ご本人、ご家族様の意向、要望、医療関係者との話し合いなどをミーティングでの課題にあげ、ケアのあり方を決め援助、支援し、より良い暮らしが出来るよう目指しています。	ケアプランは、長期は1年、短期は6ヶ月の目標を立てています。モニタリングは3ヶ月ですが、毎月ケース検討をしています。コロナ禍のため、見直しの際家族には、説明の手紙とともに様式を送り、意向や希望を出してもらうようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	月1回の7PMミーティングで日常の変化、ケアの実績、結果、気づきなど小さなことも職員で情報を共有し、見直しに活かしている。インシデントレポートはその日のうちに原因究明、改善策を話し合い、職員の連携を強化している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われないように状況に応じて柔軟な対応が出来るよう出来る限り取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣商店での買い物、散歩で、地域の方との会話も増え、町内会の盆踊り大会のお誘いなど外へ出ることへの楽しみが増えています。(今年はコロナウイルスで中止)		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本はご家族様、ご本人様の希望を尊重し医療機関を決めて頂きます。月2回の往診、24時間体制を取っており、適切な医療を受けられるように支援を取り入れています。	事業所の内科、精神科対応の協力医をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療を受けています。通院時は基本家族対応ですが、状況に応じ職員が付き添っています。看護師は職員として配置をしており、体調・健康面の支援についても安心感があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診看護師との連携を取り主治医への伝達となったださり、相談しやすく回答いただけるため心強いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは頻繁に出向き情報交換し入居の相談に乗って頂いています。入院二週間くらいで病棟看護師に医療計画を聞き、退院時の受け入れとしてカンファレンスを希望する。GHケアマネと病院側の相談員が中心となり進めて良い関係を築けています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様とのカンファレンスを持ち全職員が意向等を認識し支援しています。医療計画を聞き退院時の受け入れ、重度化に対し段階的に取り組めるよう知識と経験を踏んでいます。	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」で説明しています。医師が重度化と判断をした場合は、再度話し合いを重ねています。看取り希望の場合は看取りプランに切り替え、最期まで支援をします。今年度、看取りの事例があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	意識確認から始まり、研修講習会に参加し、報告、実施できるようシュミレーションで身につけています。緊急マニュアルあり。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回の避難訓練、夜間帯想定での訓練の実施、スプリンクラー装備、地域への協力をお願い、訓練時近隣の方への参加を求めています。非常時食料、飲料は一階に備蓄しています。	消防署から水消火器を借り、夜間想定火災避難訓練をしているほか、2階フロアから非常階段避難車を使う訓練もしています。職員が複数名近隣地区に住んでいるので、地域との協力体制ができています。備蓄は「備蓄管理表」で保管管理をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳とプライバシーへの保護の徹底、信頼関係を築き、人格の尊重を徹底し、職員同士の会話にも注意し対応しています。自由な時間と空間を持てるように心掛けています。	内部研修で認知症への理解を深めているほか、「笑顔」で言葉かけをするようにしています。職員の利用者への配慮が足りないと思われる対応があったときには「スマイルケア」の名目で勉強会を開き、職員間で意見を出し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の作業で1人1人に合わせ援助しています。外食レクも取り入れ、お好みのメニューをご自身で選んで頂いたり、配茶の際にはご自身の好みを聞く等の工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	天候の良い日は散歩や買い物に出かけます。その人らしさを重視し、ペースに合わせて支援しています。入浴日は決まっていますが常に変更が出来、ご本人さまの気持ちを優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時は暖かいおしぼりを使用、鏡の前で整容を行い、フロアへ出ます。訪問美容カットの際にはご本人様の希望を取り入れています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に何度かおやつ作りやレクリエーションを行っています。焼く、塗る、盛る等、一人ひとり出来る範囲を把握しながら分担し手伝って頂き楽しんでいます。	委託業者から届く食材を使い職員が調理をしています。利用者は下ごしらえや後片付けなどで関わっています。食事レクリエーションに力を入れています。食が細い利用者の好物を聞いてラーメンを作り提供したところ、完食してくれた事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量は必ず記入する。摂取量が少ない場合には声掛けや介助を取り入れて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食前に口腔体操を取り入れています。義歯の管理、舌下ブラシ、うがいで口臭予防しています。訪問歯科と連携し咀嚼力が落ちないように対応しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の排泄記録表に尿量、色、排便状態をチェックし、排泄パターン、体調を確認し促しています。拒否の場合は時間変更及び他の職員交代等、切り替えて対応しています。	全利用者の排泄記録表をつけています。自立排泄をしている場合は本人から状況を伝えてもらうようにしています。何らかの支援が必要な場合は一人ひとりのその日の体調や排泄パターンなどからさり気ない声掛けやトイレ誘導をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝一杯の水分、ヨーグルト、バナナ、腹部マッサージ等、主治医へ相談し、指示をもらっています。ラジオ体操や運動を取り入れています。動くことが困難な方には乳製品他、飲み物で工夫しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤を使い、香りや色を目や鼻で楽しみ、気持ちよく入って頂ける工夫をしています。職員も常に声掛けをして、安心できる支援を行っています。	リフト付きシャワーキャリアを設置しているので、介護度の高い利用者も湯舟に入り、入浴剤の色や香りを楽しみながら十分に体を温めることができます。拒否がある場合も声掛けやタイミングを工夫しながら安心できる入浴につながっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を増やし、個別に就寝時間を調整し一人ひとりリズム把握をしています。不安で眠れない方には一対一の時間を持ち、安心から睡眠へ繋げるように支援しています。また、記録には睡眠時間を細かく記入しパターンを掴めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医処方による薬を用い服用していますが、副作用等で体調に変化があった場合、スタッフ全員が周知できるように記録ノートに必ず目を通すよう徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	近隣の公園や玄関前、スーパーへの買い物、オセロ、他日常の仕事、洗濯物、食器拭きなど、一人ひとりに合った支援をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	花見、夏祭り等、季節に合ったレクレーション他、一人一人に合った外出を行っております。車椅子のご利用者様も外出、買い物へ行けるよう支援しています。	コロナ禍ですが、散歩やテラスでの外気浴は日常的に行っています。コンビニエンスストアへ買い物に行くこともあります。初詣は全員が参加しています。花の栽培の手伝いをする利用者もいます。家族との個別外出はコロナ収束後としています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の承諾の元、自己管理可能な方は個々で所持、一人一人に合った支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	はがき、暑中見舞い、年賀状をご家族あてに書いています。本人の希望があればいつでもやり取りできるように支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	707の飾りつけは利用者様の作った物や塗り絵、季節に合った作品を作り飾っています。	毎日の清掃のほか、換気や消毒に留意をしています。リビングは陽あたりが良く明るい雰囲気です。テレビやソファも寛げるよう考えて配置しています。職員がアイデアを出し、利用者と一緒に作った作品を展示しています。午前中の体操の時間はそれぞれ自分のペースで体を動かしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	707にソファを配置しており、それぞれのご利用者様が自由に寛げる空間を作っています。テレビの位置等も工夫しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物を持参して頂き、部屋に飾る等居心地の良い空間になるよう工夫しています。写真や衣類他、ご家族に相談し協力を頂いております。	仏壇、家族の写真、タンスなど馴染みの物を自宅から持ちこんでいるほか、入居後の毎年の誕生日を祝う色紙を大切に飾っている居室もあります。職員間で協力し、整理整頓や不足品の確認など気づいたらリーダー職員に報告し支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ等は大きく表示しています。ご本人の出来る事、わかる事を活かして見守り自立した生活が出来るように支援しています。		

事業所名	グループホーム殿町
ユニット名	殿町二階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフ一人一人が理念を共有し実践していこうと心がけています。研修などの機会を作り自己研鑽に努めています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事にも利用者様と参加するな地域とのコミュニケーションを大切にしています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「川崎市認知症サポーター養成講座」をホームで開催し地域の皆様にもご参加いただき認知症の方が絶えの理解や支援方法を学ぶことが出来ました		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎月開催している会議では地域とのかかわり職員の研修やイベントや行事の企画運営などを題材にスタッフ同士で意見交換を行いより良いサービスの向上に活かしています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	キャラバンメイトの参加、認知症サポーター養成講座のお手伝い、包括との意見交換など、積極的に参加しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待防止委員会による定期的な研修を行っており各ユニットでフロアミーティングを行い身体拘束しないケアについて話し合っています		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し防止策に努めています 社内では「スマイルケア」という社内研修を開催 気になる事柄はミーティングで話し合っ防止に努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	「成年後傾人制度」「日常生活支援授業」についての研修を行い今後も定期的に研修に参加し理解を深めていきたいと思ひます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時担当者が説明をしご家族様の不安や疑問にお応えできるよう十分な説明をしご理解いただけるように努めています		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様来訪時近況の報告をする際「意見や要望等を気兼ねなく言っられる雰囲気を作るように心掛けています意見や要望はフロアミーティング等で共有しサービスの向上に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催される運営会議において各ユニットのフロアミーティングで上がった議題報告または相談できる場を設けています		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休の受け入れ家庭の状況に合わせた勤務体制を取っており働きやすい環境に努めています職位資格に合わせて給与額が設定されておりやりがいを持って働ける環境が整備されています		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員(時短パート職を含む)には介護の基礎から利用者様との関わりについて丁寧な指導を実施していますシフトの中に研修を組み入れ多く参加できるように工夫しています「実践者研修」他外部研修に関しても積極的に参加が出来るような環境が整っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎年市の開催するキャラバンメイト連絡会や社会福祉協議会等の開催行事に積極的に参加することで同業者のネットワーク作り(今年はコロナウイルスにより外部研修は控えています9		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階でご本人の困っている事求めている事、ご要望などを傾聴し受け入れられるような関係づくりに努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの開始にあたりご家族が現在抱えている悩み考えや思いを持っているかをお聞きしどのように支援しているかを共に考えていけるような関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様 ご家族様のお話を伺い必要なことを見極めていきます必要がある場合は多職種のサービスを取り入れて支援できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様に寄り添い得意分野を探りながら毎日の生活の中で行かせるようレクレーション(仕事)部取り入れる等工夫して共に暮らすもの同士の関係を築いています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時や電話手紙及びハガキ(写真付き)で日比野の様子や体調面等をお話するようにしています常に共有しご家族様と一緒に支えていく関係を築けるように努めていきます		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルス対じょうきよ策により今年は面会を控えていますが必要に応じ手紙電話連絡等関係が継続できるように支援していきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	状況に応じて席を配置しています全員で食事が出来るように声掛けを行っています職員も席へ座り会話を持つようにしています 1. 2階合同のレクレーションを定期的に行い交流の場を作るようにしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した後はこちらからの積極的なフォローはしていませんが相談があった場合丁寧かつ親身に対応させて頂いています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常にどうしたいのかという事を考えた支援を心掛け困難な場合は日々の関わりの中で性格、言動や表情などから気持ちを取り込み把握するように取り組んでいます職員同士で話し合いきづいたことを意見交換しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様から生活歴、環境、仕事等小さなことでも情報を伺うことにより全体像を把握し日常の生活に近い支援を取り入れています職員間で共有しその人らしい生活が出来るように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい暮らし方、生活のリズムを把握するようにしています心身状態を見ながら持っている力を出し張り合いのある生活が出来るよう努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ミーティングを行いケアの内容について意見交換を行っています。定期的にご家族様へ連絡し意向や思いを伺い、医療往診時には常に相談し介護計画に反映させるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の体調管理、身体状況については生活記録及び個人記録に付けている。毎月のフロアミーティングにおいても気づきや日常の変化、小さなことでも職員で情報を共有し介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて通院や退院等に対応しています。既存サービスに捉われないよう必要な支援は柔軟な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	常に近隣への食事レクリエーション、買い物、散歩、町内会のお祭り等、外に出る事への楽しみが増えています。訪問美容によるカット、マッサージ施術、ボランティア等、暮らしの中のもの楽しみを多く取り入れています。(今年はコロナ対策により外出及び訪問を制限しています)		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本はご家族様、ご本人様の希望を尊重し、医療機関を決めて頂きます。月2回の往診、24時間緊急体制を取っており適切な医療を受けられるように支援されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の各測定(SPO2、バイタル、体温)往診ノートを活用し体調を常に把握しています。変化に気付いた時には訪問看護へ連絡し適切な医療に繋がっている。また、相談助言対応を行なってもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携し早期治療に努めています。情報共有やカフェインの場を設け退院後の生活の安定を図りながら早期に退院できるように努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人様やご家族様の意向を踏まえ医療関係者と連携を図り取り組んでいます。状況に応じて意思を確認し安心、納得する最期を迎えられるよう確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルがあり職員全員が周知できるように取り組んでいる。今年はコロナウイルスにより出来なかったが毎年救命救急講座を行って行きたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練の他、職員の消火器訓練、夜間想定訓練、避難階段訓練等を隔月実施しております。非常食飲料は1階に備蓄しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に自尊心を傷付けないように心掛け言葉かけや対応に配慮しています。新しく入られた利用者様に関してはフロアミーティングで共有する等、チームで理解できるよう徹底できるよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段の会話や表情から自己決定出来るよう働きかけ家庭的な暮らしが出来るよう支援しています。外食レク等ではメニューからご自分が食べたいものを選んでもらう。配茶では好きなものを飲んでもらう等、希望を発信しやすい環境づくりに配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り一人ひとりのペースに合わせ支援しています。食事時間や入浴日は決まっていますが気分や体調に合わせて臨機応変に対応しています。スタッフで連携を計り個別に行きたい所へ買い物や夕食後の入浴も対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に訪問カットが入り(今年は職員がカット施術)髪型はご本人様の希望を取り入れています。服装はご家族様の協力を得ながらその方の意向を取り入れるなどその方らしさが保てるように支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備から後片付けまで利用者様と一緒にしています。ホットプレートなどを使い利用者様と手作りおやつ作りを楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1人1人の状態にあった食事形態で提供しています。(キザミ、ミキサー他)訪問医と連携しカロリーの過不足を意識して提供しています。また馴染みのあるコップを準備して頂くことにより水分量を間違うことなく確実に確認できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛けにて口腔ケアを促しています。自力では出来ない利用者様には洗面台へ誘導し介助するようにしています。訪問歯科(毎週木曜日)と連携し口腔内の衛生を保っています。また昼食前に口腔体操を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1人1人の排泄パターンを掴み、共有しています。立位が取りづらい利用者様には声掛けを統一し立位を促す等、常にスタッフ間でミーティングを行い検討し可能な限りでトイレでの排泄が行えるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールを行っている。普段の水分摂取はもちろん特に起床時に水分を摂ってもらう。乳製品や食物繊維を取り入れる。また体操や散歩等運動をしながら便秘薬に頼らないように工夫しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	決まった入浴日はありますがご本人様の体調や希望に応じ時間や曜日を変更するなど柔軟に対応しています。スタッフ間で連携し夜間帯の入浴も可能にしています。入浴後の洋服を選ぶなど楽しんで頂けるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人1人の生活パターンを把握し安心して睡眠が取れるよう支援しています。日中の過ごし方によって夜間の状態が変わります。外気浴、散歩等して頂き、十分な睡眠が取れるよう支援しています。不安で眠れない方にはフロアへ誘導し話を聞く等安心して過ごせるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方に関する情報はファイルし変更時は医療ノート(薬局より指導有)及び、日報へ記入しスタッフ全員が周知するよう徹底しています。服薬のセットは必ず複数で行い服薬時はスタッフの声掛け読み上げ確認を行い間違いのないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人が出来る事を知り、その人に合った役割、活動が出来るよう支援しています。台所仕事、掃除、洗濯、新聞読み、散歩他、日々の生活の中に役割を持っていただき張りのある生活が送れるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物、散歩、地域のお祭り、外食レク等、事前に計画することにより外出できるよう努めています。テーブルを出しお茶会をする等少しでも外気に触れる機会が増えるよう心掛けています。個別で好きなものを食べに行けるようご家族様に協力していただくこともあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様から預かり管理をしています。買い物の希望がある場合は購入できるように支援しています。預り金から財布に現金を入れお買い物をしていただく利用者様もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様と連携しご本人様の希望にそいいつでもやりとりが出来るように支援しています。手紙を送って頂いた場合はご本人様に伝え、または代読、居室へ飾るようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	70Aの飾りつけは利用者様と作成した塗り絵や貼り絵等、季節やイベントごとに変えていき楽しんでいます。行事の写真を掲示することにより会話が弾みます。食事を一緒に作りながらリラックスした空間で過ごせるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	70Aにソファを配置しており、利用者様同士が気兼ねせずリラックスした雰囲気を作るようにしています。時には席を変えるなどし、自然と雑談できる空間を作っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様の生活習慣を尊重し、自宅で使い慣れた愛着のあるものや好みの物を使用していただく配慮をしています。居心地よく安心して生活出来るようにご家族様と連携し工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人1人に合わせ、出来る事わかる事、分かりにくい事を探り話し合い、目印や物の配置他、工夫し自立支援を行いつつ声掛け、見守りをしながら状態に合わせ無理せず行って頂けるよう支援しています。		

令和4年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム殿町

作成日 令和5年5月29日

優先順位	項目番号	原状における問題点・課題	目 標	達成に向けた具体的な取組内容	達成までの期間
1	1	法人理念と各フロア理念をすべての職員が理解しきれていない事	すべての職員が法人理念と各フロア理念を理解し、実践出来ること	朝礼時に理念の唱和を行うこと、カンファレンス等の時にも常に理念を意識すること	6か月
2	10	職員の確保が難しい現状に対して、具体的にどう解決していくのか	離職を防ぎ、定着率を上げること、募集に対する反響を増やすこと	施設内研修の見直しと共に、外部の研修にも積極的に参加していくこと、募集媒体や方法に関する研究を行うこと	12か月
3	16	コロナ期間が長期に渡った為、コロナ前と判断基準や感性に乖離があること	コロナ前のように、積極的に外に出て、地域との交流を深めること	必要以上に神経質にならずに、理念に基づいて行動すること、とにかく外に意識を向けること	6か月
4	12	パーソンセンタードケアを更に深めていき、利用者様の過ごしやすさを深めること	1人1人の利用者様の全人的理解をすべての職員が実践出来るようにすること	全人的理解に関する研修を実施し、ご家族との連携を全人的理解の観点から深めていく	6か月
5	16	災害時の対応知識について、職員間でばらつきがあること	すべての職員が一定の災害対応知識を持ち、対応にあたる事が出来るようにする	日々の誘導訓練、避難訓練の内容を参加できなかった職員にも共有できるようにする	6か月